



## PASK: PIANISTS FOR ALTERNATIVELY SIZED KEYBOARDS

### — 選択的にサイズ決めされた鍵盤を支援するピアニスト —

PASKとは、ピアノの鍵盤のサイズを選択する権利のために尽力する国際的な運動です。この資料は、鍵盤の問題へのご理解をいただきたいとの思いから、PASKによって作成されたものです。是非ご一読いただければ幸いです。

## ピアノ業界にとっての好機となるでしょう

近年、アメリカ・テキサス州の北テキサス大学において、ピアノを専攻する学生を対象に手の大きさに関する意識調査が行われました。その結果、学生の75%が、今よりもさらに大きな手が欲しいと感じていることが明らかになりました。

縮小した鍵盤で演奏することにより、実質的にピアニストにより大きな手を与えられます。

現在のピアノの鍵盤は、大部分の人の手の大きさに合うように設計されているのかというと、実はそうではありません。それは1880年代が端緒となり、当時のある有名なヨーロッパ人男性の名演奏家の手に合わせられました。それ以前のピアノの鍵盤は、一般的に現在のものより細幅で、様々なサイズが利用可能でした。

**鍵盤が大きすぎることで自分の最大限の音楽的な可能性に達しないために、個人用のピアノの購入も、そして現在のものからのグレードアップもしていない人が、世界中にどれほどいるのでしょうか。**

ピアニストの手のスパン(手を広げた時の親指と小指の先の距離)に関する最近の調査では、以下のことが示されています。

- 幅広い曲を演奏することを望んでいると仮定した場合、標準鍵盤に対して手のスパンが小さすぎる成人の割合は、50%以上にのびます。
- 現在の鍵盤のサイズに対して手が小さすぎる成人の、男女別での割合は、女性約87%、男性約24%にのびます。
- もし鍵盤のサイズが選べれば、おそらく成人のおよそ75%が現在のものより小さいサイズを選ぶでしょう。
- 現在は、手の大きい男性のために設計された楽器で子供も学ぶことを余儀なくされている状況と言えます。

多くの女性や女兒はもちろんのこと、かなりの割合の男性も、痛みや障害、または(指が届かず上達できないことからの)失意のあまりに、ピアノを続けることから遠ざけられています。

キャロル・レオーネ博士(※1)は以下のように述べています。

『私は、ピアニストが自分の手のスパンにより良く合った鍵盤の上に初めて手を置くところによく立ち合います。何度ピアニスト達が抑えきれず無意識に涙を流したことでしょう。「問題なのは自分ではない。楽器なのだ!」と悟った瞬間に、乗り越えられないとも思える問題に苦しんできた人生が消え去るのです。それに続き、可能性への喜びに彼らは圧倒されます。』

## 新しい鍵盤の規格の要請 - 1つのサイズがすべての人に合っているわけではありません

ピアノを弾く人達は、鍵盤のサイズが自由に選べることを本当は望んでいるのです。PASKは、6.5インチ(16.5cm)オクターブの現行の鍵盤に加え、6.0インチ(15.2cm)と5.5インチ(14.1cm)オクターブの2つのさらに小さいサイズ(※2)の、計3つの標準サイズの生産への移行を提言しています。現在、小規模の鍵盤メーカーを通しての購入という、非常に限られた入手方法しかないこれら2つの新しいサイズは、著しくサービスが不十分な市場の状況を表しています。

## しかしながら、違うサイズに順応するのは無理ではないでしょうか

予想に反して、多くの人達が違うサイズの鍵盤に非常に早く順応することに気付き、驚いています。

弦楽器奏者や木管楽器奏者がよくそうしているように、ピアノの場合も全く同じに、必要に応じて違う鍵盤の間で容易に交換することは可能なのです。

※1 キャロル・レオーネ博士(Dr. Carol Leone): テキサス州ダラスの南メソジスト大学准教授、鍵盤楽器研究室の学科長。

※2 これらの鍵盤の主要メーカー、アメリカ・ペンシルベニア州のスタインビューラー社は、DS6.5TM、DS6.0TM(ユニバーサル鍵盤)およびDS5.5TM(7/8鍵盤)という、これらのサイズに対する名称を採用しています。

## 『ピアノ鍵盤革命』 - 成功への鍵

選択肢の主流として提示している全3つの『標準』のピアノの鍵盤のサイズへ移行することは、世界中のピアノ製造とピアニストのための革命であり、ただ神に祝福された、手の大きな数少ない幸運な人達よりはるかに多くの、何百万ものピアニストの人生を変え、今よりもずっと幅広い曲にわたる演奏やコンサートを可能にし得る革命です。

中小から大企業までのいかなる会社でも、大々的な取り組みを行う場合に不可欠な要素として以下が挙げられます。

1. 例えば、ピアノを弾く人達のために、大学や学校、ピアノ教育に関する会議、販売店などで、これらの鍵盤を体験するための多くの機会を提供すること。
2. 『低コスト』で『初心者向け』の選択肢に含まれているもの(デジタル・ピアノやアップライトピアノ)の確保。
3. 有名なピアニストによって、演奏会場やYouTubeで紹介すること。非常に手が小さい人たちに焦点を合わせるのはもちろんのこと、様々な手のスパンを持つ様々な国籍の男性、女性、および子供を含めること。
4. 鍵盤の選択肢を提供するコンクールを後援すること。
5. 文化的な障壁や、世の中に行き渡っている誤った俗説を考慮すること。(p.4をご参照ください。)
6. PASK が提供できる資料を活用すること。(p.6をご参照ください。)

3つの規格の鍵盤のある世界では、手が『小さすぎる』成人ピアニストはどれだけいるのでしょうか。

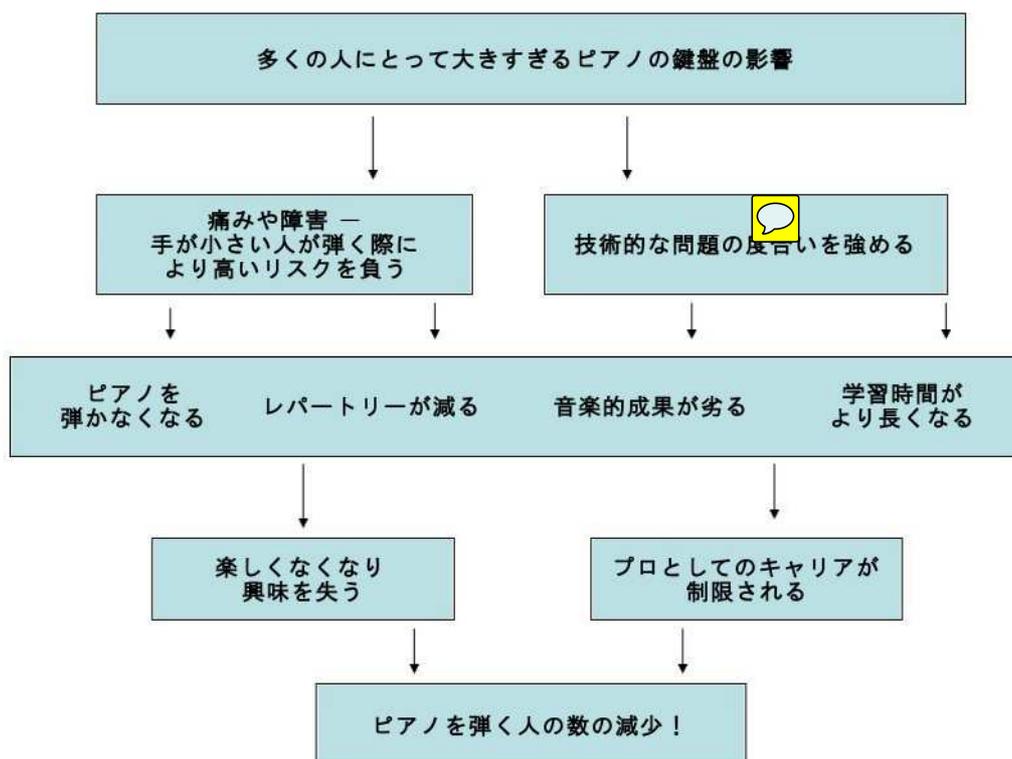
答えは、男性はいないのも同然であり、女性は10%程度にすぎません。これは、子供を考慮に入れるまでもない割合です。

## 証拠

『one-size-fits all(すべての人に合うフリーサイズ)』と現在のところ見なされているピアノの鍵盤が、実際はほとんどの人達にとって大きすぎているという証拠は疑いようのないものであり、様々な視点からもたらされています。

- パフォーマンスアート医学(Performing arts medicine)の分野においては、査読を経た研究の中で、小さい手のスパンが演奏関連の痛みや障害の危険因子として認定されています。  
女性ピアニストの70~80%が人生のある時期に痛みや障害を患うといういくつかの研究結果があり、これによると、女性は男性よりおよそ50%罹患しやすい傾向にあります。
- ピアノ曲で要求されることに関連した、最近の手のスパンのデータの分析。
- ピアノの演奏関連の人間工学的原則や生体力学的原理の承認。
- 主要なピアノコンクールやディスコグラフィーの結果における男女差。
- 細幅の鍵盤を演奏したことのある人達からの事例証拠の急速な増加。

この図は、多くのピアニストの手のスパンと、鍵盤幅の不一致に対するフローオン効果(他の出来事を起因として起こる出来事のこと)を説明しています。その結果は、上達しないことからの苛立ちによる興味の喪失だけでなく、障害に起因した前途有望なキャリアの早期の切り捨ても挙げられます。



## 手が『小さすぎる』ピアニストにとって、『one-size-fits-all(すべての人に合うフリーサイズ)』の大きい鍵盤は何を意味しているのでしょうか

- 主にストレスを受ける場所での大きな和音の演奏や、高速でのオクターブのパッセージがもたらす痛みや障害のリスクの増加。
- 『小さい手』のハンディキャップを克服するために必要とされる、より集中的な練習は、手の変形、技術面での悪い癖、および障害のリスクの増加につながる可能性があります。
- 手を完全に広げると、鍵盤に伝える力が弱くなり、力強い打鍵をする範囲のコントロールが劣ります。
- 多くの場合、曲の選択肢が大幅に制限されます。
- 多くの場合、運指の選択が適切ではありません。
- の場合、レガート奏法や和音のボイスिंगが妥協させられています。
- 分散和音や和音連打などのような、『手元』のものではない遠く離れた場所の音型をとるときや、手の位置をさらに変化させるときの横方向への手のシフト(違う音域の音を弾くために手の位置を変更させること)がより大きくなります。精神的な努力要求や、音楽自体に配慮することを断念するといったことすべてが高まります。
- キャリア積む機会が奪われ、多くのピアニストが自らの音楽的な可能性を成し遂げることができなくなっています。

## 売上高増加の可能性

(アコースティックとデジタル両方の)ピアノやキーボードの世界規模での大幅な市場の増大が以下のように予想されます。

- 若年者の場合、10代で諦めてしまうことなくピアノを続けるため、親がさらに品質の良いものを買って与える可能性が高くなります。
- 20代の場合、ピアノを続け、実家を出た後に自分個人用のピアノを購入するでしょう。
- 一般の成人の場合、ピアノを続け高いレベルに達するため、さらに品質の良いものに買い替えたり、自身の子供に習うことを勧めたりする可能性が高くなります。
- 高齢になると手のスパンが縮まりますが、やはりそれでも演奏を続けたいと思うでしょう。
- 社会全体での関心の再活性化によって、学校、大学、および他の施設に小さい鍵盤サイズのピアノやキーボードが追加導入され、売上増につながるでしょう。
- コンサート会場の既存のグランドピアノ用に、小さいサイズの鍵盤が追加導入されます。

PASKは、細幅鍵盤のデジタル・ピアノやキーボードの要望を日頃から受け取っています。この要望で時折言及される理由は、より簡単に運ぶことができる小さい楽器を所有したいという潜在性や、アパートなどの限られたスペースに適していることなどです。

## この満たされていなかった需要が、なぜ最近まで示されなかったのでしょうか

クリストファー・ドニソン氏(※3)が以下のように説明する通りです。

『ピアノの演奏の世界には、2つの大きな秘密があります。1つ目は、より大きい手で弾けば、楽器の演奏がいかに格段に容易であるかということ、そして2つ目は、それが小さい手だと、いかに不可能になり得るのかということです。もし、世界をより小さな手の半分と、より大きな手の半分の2つの構成要素に分けられるなら、より大きい手の半分が、より小さい手をした相手の困難が何であるかを真に理解することはなく、そして、より小さな手の半分が、大きい手によって、すべての困難がいかに少なくなるかということに真に気付くことはないということが分かります。……「手が大きいピアニスト」の手は、その秘密が露呈するのに十分高難度な曲に挑むよりもずっと前から、とくに十分な大きになっているのです。』

Donison-Steinbuhler(ドニソン-スタインビューラー)の発明と、選択的にサイズ決めされた鍵盤から成るDS規格の作成によって始動された革命は、すでに動き出しています。

スタインビューラー社は、アメリカの10校の大学を含む地域社会への、同社のアコースティック鍵盤の発送を続けました。現在は、ダラスの国際ピアノコンクール(※4)において、出場者がDS鍵盤を利用できるようになっています。このことは、それらの鍵盤を試し、そしてその経験が驚くべきことだということに気付く人達をより一層増やしました。インターネットが普及したことで、これらの経験を多くの人達の間で共有することが可能になったこともあり、恐らくこのことも最近になって要求が示されだした主な理由でしょう。

## 変化に対する障壁

PASKの創設者と支持者は、ここ数年、ピアニスト、教師、研究者、およびピアノ業界の代表者との議論から多くのことを学びました。『ピアノ鍵盤革命』に対する障壁は、技術面というよりは、むしろほとんどが文化的なものです。選択的にサイズ決めされた鍵盤を導入するための戦略を展開する際には、いずれの会社もこれらの障壁を理解することが重要になります。

- 『手が小さい』ことと関連付けられている、ピアニストの間での暗示的な恥辱。  
これは、1世紀以上もの間選択肢が無かったことを考えれば無理もないことです。演奏したいと思っているピアニストは誰も『大きい』鍵盤で自分自身の力量を示すほかなく、そうしなければ、自分の先行きの仕事を失うリスクを負うしかありません。その結果として、多くの人が痛みや障害に黙って耐えている状況になっているのです。
- 検証に耐えない支配的な迷信。  
最も蔓延している迷信は、違うサイズに順応することやサイズ間で交換することが、困難か不可能と見なされていることです。存命中のほとんどすべてのピアニストは選択的なサイズがあった世界には1度も住んだことがありません。したがって、弦楽器奏者や木管楽器奏者がそうであるように、彼らにも実際には全く同じ順応性があることに気付いていないのです。
- 証拠に裏付けられていない以下を含む他の迷信。  
選択的なサイズの鍵盤を使うと『テクニックが損なわれる』というもの、あるいはそれ以上に冷酷なことには、その優れたテクニックや『特殊な芸当』があれば、あらゆる手のスパンの問題を克服することができるといったものです。これは、彼らの困難が練習や才能の不足に関連しているのだという考えを生徒に植え付けています。実際のところは彼らの手のスパンが正確に知られていない場合や、手の大小の基準値である8.5インチ(21.6cm)以上の、彼らの性別にしてはかなり大きい場合(例えばアリシア・デ・ラローチャ)などに、過去の有名なピアニストが『手が小さい』と見なされている可能性があります。
- 選択的なサイズに接する経験が不足しているということは、つまり、ほとんどの人が自分の手のスパンにさらに釣り合った鍵盤を使うことでの、絶大で、将来にわたる利点に気付いていないということです。
- 今日のピアニストが現在とは違う未来を信用していないように、選択的なサイズを演奏することや試すことさえもしばしば避けられます。故に、小さいサイズが単に『隙間市場』か『特注』のオプションなどではなく、主力と見なれることが必要となります。
- 関連項目：<http://www.paskpiano.org/barriers-to-change.html>

## 3つのサイズは実際面でどのように活用できるのでしょうか

- コンサート会場に関しては、コンサート用の楽器に交換可能な鍵盤を使用することができます。これは、鍵盤の選択肢を提供する初めての(テキサス州、ダラスでの)国際ピアノコンクールにおいて、現実的な解決策であることが証明されています。
- 大学や学校に関しては、様々なピアノに複数のサイズを使用できます。多くの既存のピアノに据え付けることも出来るでしょう。
- 民間のピアノ教室に関しては、現在は複数のピアノを所有している教師も多いので、少なくとも2つのサイズを所有することが実情にそぐわないことではないでしょう。
- 各家庭では、子供が(デジタルかアップライトの)より小さなサイズの鍵盤から始めることが理想的であり、それから必要に応じて鍵盤のサイズを大きくしていくでしょう。ただ、女儿の場合はそのほとんどがDS5.5™からサイズを大きくする必要がありません。家庭内にピアノを弾く人が複数いる場合は、DS6.0™が最善のサイズと言えます。
- ピアニストは多くの場合、一生の間に3つのサイズに出会うでしょう。したがって、必要に応じて違うサイズを演奏することには慣れているでしょう。
- さらに提案をご覧になりたい場合は、<http://www.paskpiano.org/vision-for-the-future.html>をご参照ください。

1つのサイズに固執しているピアノ界の拘りは、装備や衣類を個々に合わせることへの必要性が一流のレベルにおいて最も重要不可欠になるスポーツ界とは、際立って対照的です。

スキーやテニスラケット、または靴を個々に合わなければならないのは当然のこととされており、これには芸術性と技術的スキルを兼ね備えているそれらのウィンタースポーツが挙げられます。

※3 クリストファー・ドニソン(Christopher Donison)：DS鍵盤の共同発明者、カナダ・ブリティッシュコロンビア州に住む作曲家およびピアニスト。

※4 <http://www.dallasipc.org/>

## マーケティング・メッセージ

- 現在の『手が小さいこと』によって生じている不名誉な状況を考えれば、私たちは『小さい手』について触れるのを最小限に抑える必要があります。上記で述べたように、かなりの割合の男性に加え、圧倒的多数の(アジア人だけでなく白色人種の)成人女性は、現在の鍵盤を演奏することに対して『小さい手』です。同様に、小さな子供や障害を負った人たちにとって小さいサイズが理想的であるとはいえ、これらが決して唯一の市場ではありません。
- 選択的サイズの呼び名に関しては、(例えば7/8といったような)全体からの分数で表した場合、『不完全な楽器』というニュアンスを含み、劣っているものかもしれないという印象を与えてしまう可能性があるため、オクターブの長さに照らした3つの『規格』で呼ぶ方がむしろ最適だということに私たちは気付いています。
- 『縮小したサイズ(reduced size)』および『より小さい(smaller)』鍵盤といった用語は、鍵盤の数が減らされているのではないかと混乱させることがあります。通常は研究者によって使われている、ESP(K(Ergonomically Scaled Piano Keyboard(人間工学的にスケールされたピアノ鍵盤))という用語は、正確に表現されているものの、大量販売に向いている用語とは思えません。
- 靴やスキーを選ぶのと同様に、あなたの手のサイズに『ふさわしい』鍵盤を選ぶことに意識を向けてください。
- 『ちょうど良いサイズ』、あるいは『最適なサイズ』は、ピアノの演奏をはるかに容易でより心地良く、ずっと楽しいものにしてくれます。
- これらの鍵盤は、何百万人もピアニストがより早く習得し、自身の最大限の音楽的な可能性に達し、現在は弾くことを拒まれている曲を演奏する助けになることでしょう。ラフマニノフ、リスト、あるいはヴァイン、ないしはシューマンのトッカータに順調に取り組んでいる人が、現在どれだけのいるのでしょうか。
- 細幅のピアノ鍵盤は、『大きい手』(ほとんどのピアニストがほしいと思っているもの)をピアニストに事実上贈っています。
- PASKは、身の上話が最大の影響をもたらすことが多いと感じています。別紙のPASKの資料、“Quotes(引用)”をご参照ください。

## 今後の道筋

Clavier Companion(クラヴィエ・コンパニオン)の2015年9/10月版には、キャロル・レオーネ博士(※5)によって書かれた『Size is Key(サイズが解決の鍵)』という記事が特集されています。ピート・ユートラス氏は、自身の社説の中で以下のように述べています。

『小さいサイズの鍵盤が私たちの仕事や音楽の世界に贈る好機に、私は心を躍らせています。ピアニストが気持ちよく演奏し、障害を回避する手助けをする機会をこれらの鍵盤が生み出すことに、私はワクワクしています。練習の申し込みや、ピアニストが音色や芸術性にさらに真っ直ぐに集中する助けにこれらの鍵盤がなり得るという事実、私は興奮しています。』

スタインビューラー社による先導に続き、他の小規模のピアノメーカーやキーボードメーカーが関心を持ち始めています。これは近い将来、ピアニストがその違いを経験する機会をさらに増やし、それによって大企業への圧力が高まることを意味し、沢山の選択的サイズの鍵盤を社会全体にもたらすでしょう。

新たなTASK・Technicians for Alternately Sized Keyboards(選択的にサイズ決めされた鍵盤を支援する技術者)ネットワークは、世界中の顧客が、交換用の新しい鍵盤、あるいはアコースティック・ピアノに組み込まれた状態での選択的サイズを容易に注文できるようにすることで支援します。

カワイのGM12の『小さい鍵盤(オクターブでおよそ6.0インチ)』のモデルが、カワイのオーストラリア・オフィス経由で最近販売されている通り、6.0インチ・オクターブの鍵盤の製造に技術的な課題が突きつけられることはありません。5.5インチ・オクターブのサイズに関しては、外側(低音部と高音部)の鍵盤の下に特別な支えを必要とします。スタインビューラー社は、鍵盤の製造に関連する特許をもちや何も取得してはいません。

今後、どこの大企業がリードするかによりますが、企業戦略は、各企業の様々な製品(アコースティックかデジタルか)、世界中の既存市場、親交のある『アーティスト』を使つての特別な機会、そして注目を集める様々なコンクールの後援をする機会によって決まる可能性が高いです。

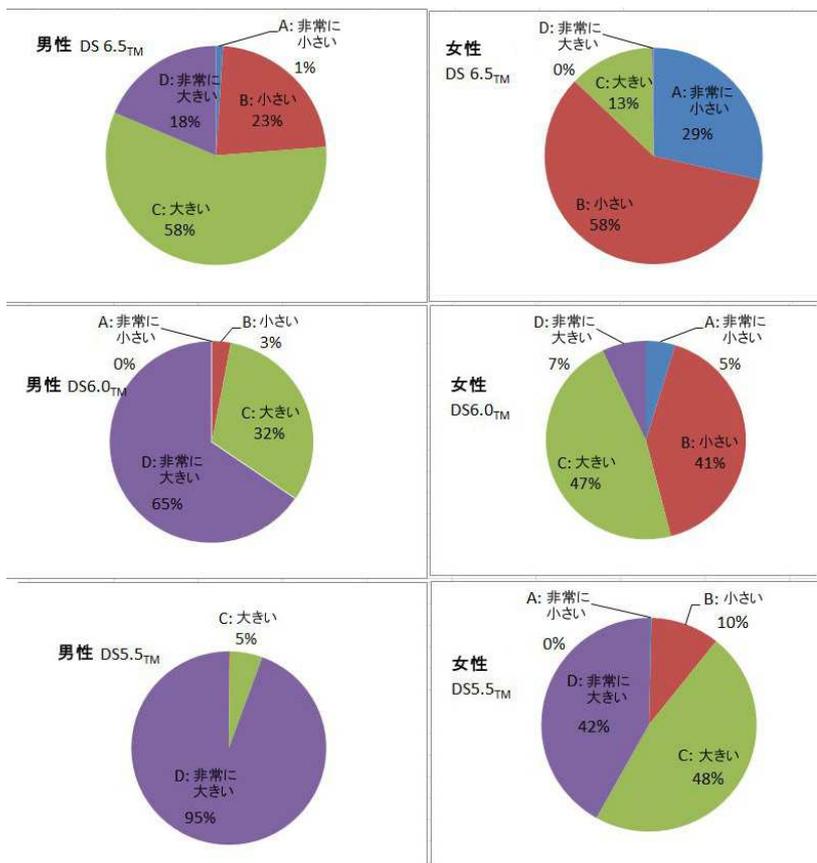
※5 テキサス州ダラスのSMU(南メソジスト大学)メドウズ芸術学校のピアノ学科の学科長およびピアノの准教授。

## 選択的サイズと命名法

- 現在スタインビューラーによって作られた2つの主な追加のサイズ(DS6.0™とDS5.5™)に拘ることには、市場での混乱を避けるための意義があります。教師とピアニストからの重要な証拠に加えて、スタインビューラー氏によって行われた、様々な手のスパンのピアニストを対象とし、様々な鍵盤サイズを使った取り組みは、両方のサイズの必要性を裏付けています。
- 即座に順応することから、DS6.0™は多くの人からすぐに気に入られます。このサイズは多くの男性を含む非常に幅広いピアニストを満足させます。これは、将来的に最も人気のあるサイズとなる可能性を秘めており、恐らく本格展開の初期段階には企業による重要な焦点となるでしょう。
- 手のスパンの研究では、(標準鍵盤の7度に相当するオクターブのサイズの)DS5.5™が、男女間において公平な機会を与えるために不可欠であることが示されています。多くの女性、とりわけアジア民族の人たちにとっては、DS6.0™がまだかなり大きすぎることが分かります。DS5.5™に関しては、順応するまでの時間が若干長めではありますが、それは通常1時間以上かかることはありません。
- 商標登録されているDSという呼称の使用は、ピアノメーカーやキーボードメーカーのためのオプションです。

## 選択的にサイズ決めされた鍵盤は、『小さな手』の問題を事実上なくすことができます

これらの円グラフは、手のスパンのデータと、以下のページでまとめられている『小さい手』の定義に基づいた、4つの手のスパンの区間それぞれでの成人の男女の割合を示しています。それらはDS6.0™が男性にとっての問題を基本的に解決すること、そして女性が同程度の恩恵を受けるためにはDS5.5™が必要とされることを示しています。



## PASK はどのように力添えできるでしょう

- フェイスブック(PASK およびスタインビューラーのページ)や、ウェブサイトへのヒットを介した支持が堅調に高まっています。
- PASKは様々な鍵盤の企業との関係において中立であり、(デジタルかアコースティック、あるいはハイブリッドの)細幅鍵盤に関する新たな取り組みは、どのようなものでも促進し続けます。
- PASKの援助は、例えば以下による産業界に対する援助です。
  - 業界出資による教師会議やセミナーでの選択的サイズの鍵盤の話者を推薦すること。
  - 公の場での演奏のため、注目を集めるピアニストを推薦すること。
  - 地元の学校か大学で、あるいはピアノコンクールに選択的にサイズ決めされた鍵盤を取り入れるよう働きかけること。
- PASKは、鍵盤の選択肢を提供するところであればどのピアノコンクールためでも、その賞金への寄付をするよう働きかけること、そして鍵盤の取得に力を注ぐ施設を支援することに努めます。

## さらなる詳細についてのリンク

[www.paskpiano.org](http://www.paskpiano.org)  
[www.smallpianokeyboards.org](http://www.smallpianokeyboards.org)  
[www.taskpiano.org](http://www.taskpiano.org)  
[www.steinbuhler.com](http://www.steinbuhler.com)

## フェイスブック

[facebook.com/pask.piano](https://facebook.com/pask.piano),  
[facebook.com/task.piano](https://facebook.com/task.piano)  
[facebook.com/dskeyboards](https://facebook.com/dskeyboards)

## 近年の手のスパンの調査と、『小さい手』を特徴付ける結果

以下の調査は、2015年に開催された2つの主要な会議、オーストラリア・メルボルンでのオーストラレーシア・ピアノ教育学会議 (Australasian Piano Pedagogy Conference) と、アメリカ・シカゴでの鍵盤楽器教育学に関する全米会議 (National Conference on Keyboard Pedagogy) に提示されました。

2015年7月のメルボルンでのオーストラレーシア・ピアノ教育学会議の Beyond the Black and White で発表された完全な論文の、ボイル・R、ボイル・R、およびブッカー・E によって書かれた Pianist Hand Spans: Gender and Ethnic Differences and Implications for Piano Playing. (ピアニストの手のスパン: ピアノの演奏に対する性別や民族の違いおよび関わり合い。) が、2015年の終わりに入手可能となる見込みです。(www.appca.com.au)

現在、いくつかの結果が以下のウェブサイトのページで入手可能になっています。

<http://www.smallpianokeyboards.org/hand-span-data.html>

<http://www.smallpianokeyboards.org/how-many-pianists-have-small-hands.html>

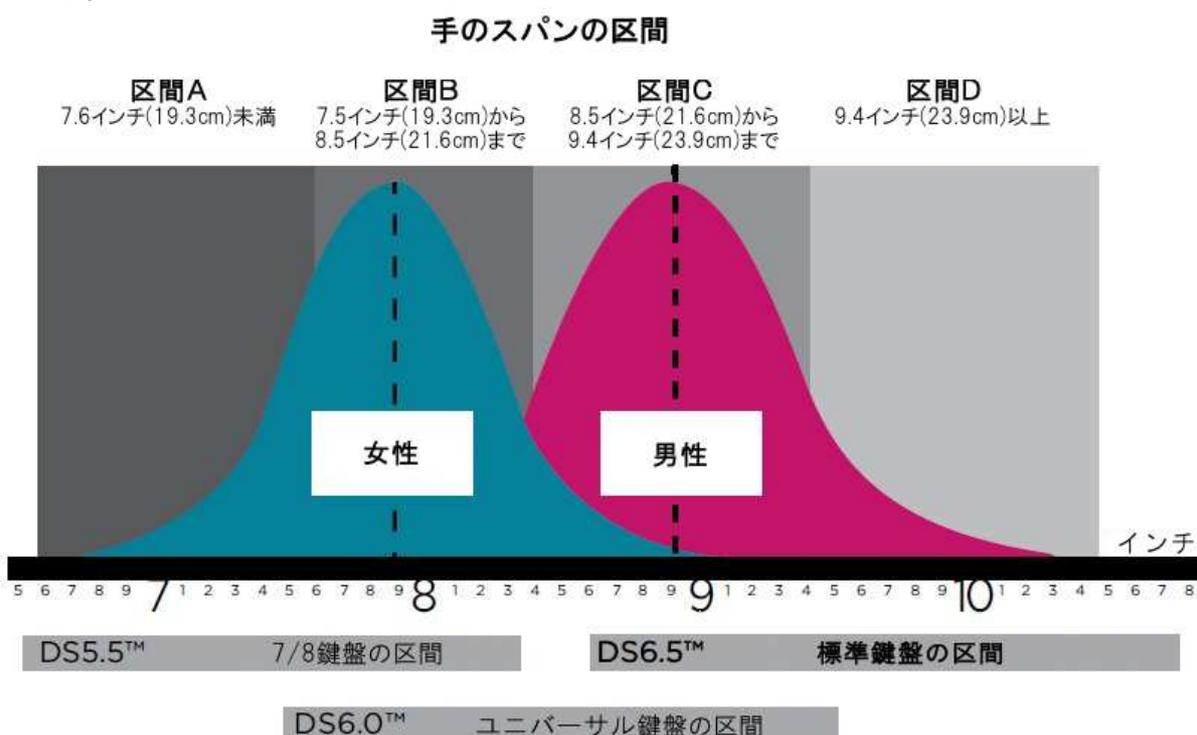
473人の成人ピアニストからデータが集められて分析されました。サンプル中のアジア人と白色人種の比率は約2:1でした。比較する目的で、若いピアノ専攻の学生(18才未満)と、大学のビジネスを専攻する学生(ピアノを弾かない人)の小さなグループからもデータが集められました。いくつかの重要な発見が以下に挙げられます。

- 手のスパンの測定は、男女それぞれの分布が明白であるため正規分布に従っています。
- 成人男性は、成人女性よりかなり大きい手のスパン(親指から小指まで)を持っています。平均すると、男女差は白鍵1つ分の幅を超える1インチ(2.5cm)にもなります。
- 白色人種の(男女それぞれの)スパンは、アジア人のスパンよりも約4分の1インチ(0.6cm)大きいです。
- 高く評価されている幅広い曲を演奏する国際的なソリストには、他の人よりも大きいスパンがある傾向があります。彼らには少なくとも8.9インチ(22.6cm)の『平均的な男性』のスパンがある傾向があり、多くの場合さらに大きいです。
- かなりの割合(約30%)の女性は、幼い子供の手とほぼ同じ手のスパンです。
- 手の大きさ次第でピアノを続けるかどうかの自主的選択をすることが主な要因である可能性が高いために、ピアノを弾かない人たちの手のスパンは、ピアノを弾く人たちより小さい傾向があります。
- 結果は先行研究と一致しています。

以下は標準鍵盤と関連付けた『小さい手』の定義です。

- 幅広いピアノ曲の全域で演奏したいという欲求があると想定すること。
- 手の緊張は無いが、パワーや容易さのあるオクターブ、大きな和音の高速なパッセージが演奏できる技量、そして鍵盤の手前の縁に指を沿わせた形で10度を辛うじて弾くことができる技量に基づき、親指から小指までのスパンが8.5インチ(21.6cm)未満のスパンの手が『小さい』と定義されました。(下記の区間AとBを参照)

下の図は、成人の男性と女性の手のスパンの分布を説明し、その下の帯は、各鍵盤サイズに最もふさわしい手のスパンの範囲を示しています。



- 6 ページで示されているように、成人女性の約 87%、および成人男性の 24%は、標準鍵盤で演奏するには『小さすぎる』手のスパンです。
- ほぼ全ての子供もまた、少なくとも彼らの人生におけるある時期に『小さい』、および『非常に小さい』の範囲に入ることになります。
- 9 インチより少し上回る(ここでは『大きい』に分類される)人達でさえも、オクターブのサイズが標準鍵盤より小さい鍵盤の 6 インチ (DS6.0™) を通常好むという強い事例証拠があります。  
選ばれるサイズはピアニストが演奏したいと思っている曲によるところが大きいとはいうものの、ほとんどのピアニストが楽に 10 度に届き、緊張なく高速のオクターブや大きな和音を演奏したいと思っているでしょう。
- クラシックの曲だけでなく、ジャズやロック(10 度を演奏する技量、パワーや持久力)に対しても、大きい手のスパンは重要です。
- 特定の間隔に手を広げる技量が要求される部分では、手のスパンと鍵盤のサイズが不適切な組み合わせになっている場合、打鍵された強い衝撃が鍵盤に十分には伝わりません。

『この手ではどうやっても届かず、ただ物欲しそうに空想にふける中でしか演奏できなかった和音が、何事もなく楽に届くことは言うまでもありません。練習するにつれて分かってきたことは、鍵盤のサイズが適切であれば、ありとあらゆるピアノの技術が非常に容易だということでした。私がこれまで奮闘しながら練習を続けてきた和音の跳躍進行、トレモロ、音階アルペジオ、上昇と下降のオクターブが全くばかばかしく感じられてしまいます。あるショパンの練習曲のパッセージをどれほど練習したとしても、それがせいぜいぎこちなく、素人臭くしか聞こえなかったため、練習せず放っておいたことがありました。しかし、自分の指に合った鍵盤でこのショパンを弾いた時、「ブロンフマンの奏でる音のように聞こえるではないか！」と、心の中で驚嘆していました。』

((Mr)ダイスケ・サカイ、2014 年 11 月。DS5.5™ 鍵盤の所有者。)